

MINO SHIRAKAWA 70th ANNIVERSARY
豊かな恵みで70年 幸せつむぐ 白川町

しらかわ 議会だより

町議会とあなたを結ぶ広報紙

No.220

2026年5月1日

第1回定例会 令和8年度予算など可決
予算総額 123億1600万円



令和8年度予算の概要	2
予算を徹底チェック	4
第1回定例会の概要	8
まちの課題を問う 一般質問に4人が登壇	10
議会活動報告	14
議会の動き・表紙は語る	16



白川町議会ホームページ

一般会計87億9000万円は過去最大
施設一体型小中学校建設に重点



町議会第1回定例会を
2月27日から3月19日に
かけて開きました。

町長が新年度に向けた
施政方針、教育長が教育
運営基本方針を述べると
ともに、新年度各会計予
算案をはじめ、令和7年
度補正予算、条例の制
定・改正・廃止、人事案
件など、町長から提出さ
れた29の議案を慎重に審
議しました。

その結果、いずれの議
案も全員賛成で、原案を
承認・可決・同意しまし
た。

また、一般質問では、
4人の議員が町政の課題
について質問しました。

令和8年度 各会計予算の規模

区分	予算額	前年度予算額	増減率	
一般会計	87億9,000万円	83億0,000万円	5.9%	
特別会計	国民健康保険	9億9,100万円	9億9,100万円	0%
	介護保険	11億5,500万円	11億6,300万円	△ 0.7%
	後期高齢者医療	2億0,000万円	1億7,900万円	11.7%
	地域振興券交付事業	0円	2,000万円	皆減
	特別会計計	23億4,600万円	23億5,300万円	△ 0.3%
公営企業会計〈簡易水道事業〉	11億8,000万円	10億500万円	17.4%	
合計	123億1,600万円	116億5,800万円	5.6%	

町長施政方針 ～基本施策は5つの柱～

次の施策を基本として町政運営に邁進する。

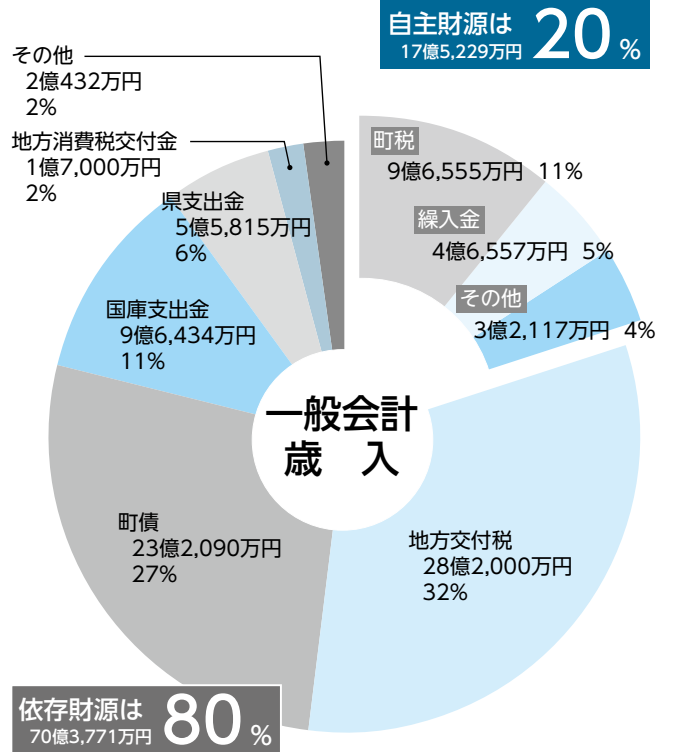
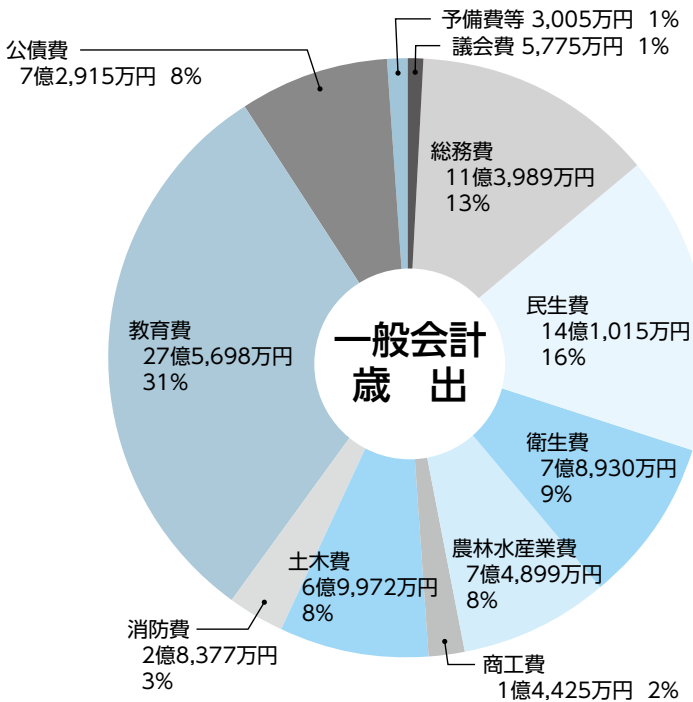
- 産業・経済の循環に地域資源を活かす
- 生きがいと活躍の場を作り、健やかな暮らしに活かす
- 最新技術と情報を安全・安心な暮らしに活かす
- ふるさと愛を育み次世代のまちづくりに活かす
- 住み続ける人、住みたい人の良さ、つながりを活かす

町長提案説明・教育長教育運営基本方針の内容がYouTube(動画配信サイト)でご覧いただけます。



令和8年度 一般会計歳入歳出予算の内訳

目的別歳出予算



令和8年度 予算の概要

1. 産業・経済の循環に地域資源を活かす

- ①農林業の振興 5億8,632万円
- ②観光の振興 6,815万円
- ③商工業の振興 4,369万円
- ④なりわいづくりと雇用の創出 3,298万円
- ⑤自然と資源のブランド化 3,381万円

2. 生きがいと活躍の場を作り、健やかな暮らしに活かす

- ①保健・医療・社会保障の充実 26億1,103万円
- ②地域福祉の推進 2,953万円
- ③子育て環境の充実 1億7,494万円
- ④高齢者福祉の充実 7,495万円
- ⑤障がい者福祉の充実 3億3,437万円

3. 最新技術と情報を安全・安心な暮らしに活かす

- ①道路交通網・公共交通の充実 6億3,283万円
- ②情報基盤・先端技術の利活用 2,869万円

- ③消防防災対策の充実 4億1,741万円
- ④生活環境の充実 13億0,323万円
- ⑤自然環境の保全 1億6,741万円

4. ふるさと愛を育み

次世代のまちづくりに活かす

- ①教育環境の充実 23億4,397万円
- ②生涯学習・スポーツの充実 1億3,069万円
- ③芸能・文化の振興 1,077万円
- ④自分を活かす・生きる力の醸成 550万円
- ⑤ふるさと白川を思い続ける心の醸成 2,247万円

5. 住み続ける人、住みたい人の良さ、つながりを活かす

- ①地域コミュニティ活動の推進 1,630万円
- ②地域間交流、関係人口の創出 2,236万円
- ③移住・定住の推進 3,904万円
- ④生活圏域・広域行政区域の活用 884万円

予算決算審査常任委員会 予算を徹底チェック

令和8年度各会計予算は、議員全員による予算決算審査常任委員会で、2日間にわたり徹底検証しました。

委員会での主な質疑と審査意見、賛成討論は次のとおりです。

財政・全体運営

問 一時借入金の限度額引き上げの理由は何か。

答 国や県の補助事業では、工事費などの支払いが終わった後、補助金や*起債が収入されるため、一時的に現金が不足する期間が生じる。この不足を補うための仕組みが一時借入金である。

令和8年度は、学校建設という大型事業により一時的に必要な現金額の増加が見込まれることから、借入可能な上限額を例年の5億円から20億円に引き上げたものである。なお、この額はあくまで限度額であり、常に満額を借り入れるものではない。また一時借入金については、年度内に返済する前提の一時的な現金での対応方

法である。

*起債（地方債）とは

財政上必要とする資金を外部から調達することによって負担する債務で、その履行が一会計年度を超えて行われるもの。

人件費・職員体制

問 人件費増加の要因は何か。

答 給与改定及び会計年度任用職員の見直し状況はどのようか。

問 給与改定及び会計年度任用職員の見直し状況はどのようか。

答 フルタイム雇用の抑制や高齢職員の再任用縮減を進めている。

問 特別職3名を合わせた129名のうち、町内87名、町外42名の通勤状況である。

空き家・税制

問 町内に居住しておらず、管理も不十分な空き家であっても固定資産税の軽減措置が適用されているケースがある。適切に管理されている空き家と区別すべきではないか。

答 空家対策特別措置法の改正により、管理不全空家として町が認定し勧告を行うことで、軽減措置を外すことが可能となっている。今後、個々のケースを見ながら適切に判断をしていく。

交通安全

問 交通事故について、物損事故の実態は把握しているのか。

答 警察が把握している町内の物損事故は164件である。ただし、軽微な事故は届け出がされない場合もあり、すべてを把握することは難しい。事故の原因は、アクセルとブレーキの踏み間違いや携帯電話の使用など、不注意によるものが多い。

問 交通安全活動において、地域で人手不足が深刻化しているが、町としてどのように考えているのか。

答 各地区で人手不足による課題があると認識している。分会長等の意見を聞きながら、対応を検討していきたい。

耐震診断・木造住宅耐震改修工事

問 住宅の耐震診断について、精密診断にかかる費用はどのようか。

答 家屋により異なるが、おおむね20万〜40万円程度である。

問 町内で耐震診断に対応できる体制は整っているのか。

答 研修を受講した設計士がおり、町内で対応できる体制づくりを進めている。

問 森林環境譲与税の活用は可能か。

答 制度上、耐震改修工事そのものには充当できないが、町産材を使用

した場合には材料費への活用が可能であるため、今後その活用について検討していく。

避難所環境

問 避難所の備蓄について、女性や乳幼児、高齢者に配慮した物品の整備は進んでいるのか。

答 乳幼児向けのミルクや哺乳瓶を整備しているが、年数も経過しているため更新を予定している。また、高齢者向けの備品についても、予算の範囲内で整備を検討していく。

公共交通対策

問 個別対応サービスについて、委託費の内容と運賃の仕組みはどのようか。また、町の負担はあるのか。

答 個別対応サービスは、タクシーのように利用できる交通サービスである。委託費は、ドライバーの人件費や車両保険などの費用を見込み、稼働時間に応じて支払う。町の負担はなく、利用者の運賃で賄う仕組みとしている。運賃は一律料金とし、基本は10分1,500円、以後1分ごとに100円を加算、夜間及び町外利用は2割加算とする予定である。現在、運輸支局への手続きを進めており、7月上旬の開始を予定している。

国際交流事業

問 日本とイタリアの国交160周年記念事業について、具体的内容はどのようなものか。

答 姉妹都市であるイタリア・ピストリア市から演奏者を招き、演奏会の開催を予定している。

中小企業支援

問 商工業者・小規模事業者への支援策として、新たな補助制度が創設されたが、内容はどのようなものか。

答 中小企業・小規模企業者総合支援補助金として、事業者の取り組みを支援する制度を新設したものである。

問 商工会に加入していない事業者は対象となるのか。

答 本支援制度は、商工会員を対象とするため対象外となる。

福祉有償運送

問 福祉有償運送はどのような体制で運行されるのか。

答 令和8年7月までは白川町社会福祉協議会が許可を受けて運行し、7月以降は町が許可を受け、株式会社JINへ運行を委託し、同社と社会福祉協議会の車両を活用して運行を行う。

※福祉有償運送とは

高齢者や障がいのある方など、公共交通の利用が難しい方を対象に、有償で送迎を行う制度。

集団営農用機械施設整備

問 集団営農用機械の補助は、県の採択が見込めるのか。

答 県内で要望が多いこと、また、採択条件も厳しく、採択されることは容易ではないが、条件を満たすよう努力していく。採択されない場合は、町単独で補助対応する方針である。

特産品の販路拡大

問 特産品の販路拡大について、どのような成果が出ているのか。

答 他地域の道の駅に白川町コーナーを設けたことで、売上増加が見られた。また、百貨店でのフェア開催など、新たな販路開拓にも取り組んでいる。

木材普及活動支援

問 木材普及活動支援事業の利用状況と課題はどうか。

答 令和7年度は、9件の利用見込みであり、木材利用の促進につながっている。一方で、補助額が少なく利用につながりにくいとの声もあり、建築組合の意見を踏まえ

ながら制度の見直しを検討している。

道路維持修繕

問 町道橋の数と点検の実施状況はどうか。

答 町道橋は304橋あり、その点検は、補助金の交付状況や橋梁の構造によって実施数変動するため、点検サイクルの平準化は難しい状況であるが、法定点検の期限を遵守し、計画的に実施している。

一般廃棄物処理

一 プラスチック分別収集の導入目的は何か。

答 プラスチック資源循環促進法に基づき全国的な取り組みであり、可燃ごみの減量による処理費削減にもつながるものである。

問 その一方で、可燃ごみ処理費が増加した理由は何か。

答 人件費の高騰による派遣費用の増加や、ごみ袋作成費の増加によるものが主な要因である。

問 プラスチック処理にはどのような費用がかかるのか。

答 選別処理費、運搬費、再製品化にかかる負担金などが必要となる。

水道事業

問 水道料金改定の検討状況はどうか。

答 令和6年度、7年度の決算を踏まえ、令和8年度に経営戦略を見直し、その結果を基に決定していきたい。9月頃までに料金案を示す予定である。

問 ※有収率の改善に向けた対応はどうか。

答 漏水調査と修繕を継続しているが、漏水箇所の特定が難しい場合もあり、段階的な改善を図っていく。

※有収率とは

作った水の量と収入になった水の量の比率で、数値が高いほど効率よく水を届けることができていることを示す。

実践的な英語学習

問 実践的な英語学習の取り組み内容と、その効果をどのように捉えているのか。

答 オンラインによる海外との交流や、スピーキング練習機能を活用した会話練習を行っている。効果については、客観的な指標による評価は難しいが、生徒が自ら英語で伝えようとする姿勢が見られ、意欲の向上につながっていると考えている。今後も、国際理解教育の一環として英語教育の充実に取り組んでいく。

山林等の寄付

問 山林などの寄付の相談に対する町の方針はどのようなか。

答 寄付の申し出があった土地は、現地確認を行い、受け入れの可否を判断している。別荘地内の土地などでは、分筆の状況と現地が一致しないケースも多く、受け入れが難しい場合もある。山林については、所在不明となることを防ぐ観点もあるが、すべてを受け入れるのではなく、特に町道などに隣接する土地は取得を進めるなど、現地の状況に応じて判断していく。

スクールバスを活用した通学

問 熊の出没など安全面を踏まえ、スクールバスの活用を広げるべきではないか。

答 安全面を踏まえ、自転車通学を見直し、バス通学へ切り替えた地域もある。今後は、スクールバスの乗車人数や運行ルートを検討し、安全確保を最優先に対応していく考えである。

次の7項目について審査意見が述べられました。

1. 給与費については、将来の財政運営への影響を十分踏まえ、会計年度任用職員を含めた適正な人員管理を図り、効率的な行政運営に努められたい。
2. 土地価格等の状況を踏まえ、町施設の土地借上料の見直しを進められたい。併せて、土地所有者の理解が得られる場合には、当該土地の取得についても検討されたい。また、町有財産の遊休地については、売却を含め適切な処分を図るなど、適正な管理に努められたい。
3. 中小企業及び小規模企業者の持続的発展を支援するため、新たに補助制度を創設したことについては評価するものである。今後は、制度の周知を十分図るとともに、町内事業者幅広くその効果が行き渡るよう、商工会との連携を図りながら、事業の適切な推進に努められたい。
4. 茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業補助金における特産品振興センターが事業主体となる乗用型管理機については、事業の運用や利用料の決定、将来更新に係る考え方を整理し、適切な運用が図られるよう体制整備に万全を期されたい。
5. 林業施設の整備に関する経費をはじめとした団体への補助金交付のあり方については、当該団体の構成員が複数の町村にまたがる場合には、関係町村にも応分の負担を求めるなど、公平性が確保される負担割合での支出を執行されたい。
6. 令和9年度から予定されている水道料金の改定については、住民説明会の開催などにより、利用者の理解が得られるよう丁寧な説明に努められたい。また、改定後の水道料金の額については、急激な負担の増加とならないよう配慮した設定とされたい。
7. 施設一体型小中学校については、白川中学校の生徒が来年1月から新校舎を利用できるよう、整備の進捗管理に万全を期されたい。併せて、令和9年度に予定されている白川小学校及び蘇原小学校の新校舎への統合についても、児童・保護者及び地域の理解を十分得ながら、支障のないよう万全の準備を進められたい。

令和8年度一般会計予算、3つの特別会計予算並びに簡易水道事業会計予算について、賛成の立場で討論を行います。

本年1月から供用が開始された新庁舎は、従来の役所のイメージと異なる開かれた空間として、町民が気軽に立ち寄り、交流する場となっております。特に中学生をはじめとする若い世代の利用も見られ、地域に親しまれる施設として、幅広い世代が集う憩いの場となっている点を評価いたします。

さて、令和8年度は、町政70周年という節目の年であり、総額が123億円を超える大型予算として編成されております。本予算は、少子化の進行や人口減少といった本町の課題に対応しつつ、将来を見据えた基盤整備と地域活力の維持・向上を図るものであり、全体としてバランスの取れた予算編成であると受け止めております。

施設一体型小中学校の建設をはじめ、町内中小企業への支援の充実、白川茶の振興に向けた取り組み、簡易水道料金の改正、関係人口を増やす施策など、多くの施策が計画されており、いずれも本町の持続的発展に資する取り組みであります。

特に、施設一体型小中学校の建設は、教育環境の質を向上させる重要な取り組みであり、少子化の本町にあって、将来を見据えた極めて重要な施策であります。

一方で、これらの施策を着実に成果へと結びつけるためには、地域との連携が不可欠であります。事業の推進に当たっては、町内関係者との連絡調整を一層密にし、相互の協力体制のもとで着実に進められるよう期待いたします。

また、予算審査の過程で示された意見や提案を十分に踏まえ、最小の経費で最大の効果を上げるという視点に立ち、効果的かつ効率的な予算執行に努められることを求めます。

以上、本予算は、本町の課題に的確に対応し、将来に向けた基盤整備を進めるものであり、総合的に妥当なものとして判断し、令和8年度一般会計予算、3つの特別会計予算並びに簡易水道事業会計予算についての賛成討論といたします。

令和8年度白川町一般会計予算、並びに3つの特別会計予算、簡易水道事業会計予算に、賛成の立場で討論を行います。

令和8年度の一般会計予算は、87億9千万円が計上され、過去最大の超大型予算であります。その大きな要因は、令和9年度までの継続事業として進行中の学校建設がピークを迎え、20億円余りが計上されているからであります。しかしながらこの学校建設の財源には、過疎債の特別枠等を有効に活用されており、その他の事業についても国や県の補助事業等に積極的に取り組み、将来的な実質公債費比率のピークは13%程度と見込まれています。これは、町の財政に大きな負担となるものではなく、適切な財政計画の上に予算が編成されていることに敬意を表するものです。

急激に進む人口減少と少子高齢化が、町行政に多くの課題をもたらす中、新年度の予算では、毎年のことながら、地域社会を維持し、町民の生活を守っていくために、インフラ整備、福祉・防災・減災対策、子育て支援、産業の振興等、あらゆる分野に配慮した予算編成をしていただきました。

その中でも、私が特に評価し、期待する点を3点挙げさせていただきます。1つ目は若年層に対する町内で働くことへの働きかけです。中学生に対する企業体験や、都市部の学生等に向けたワーキングホリデーなどは、少なからず若者に刺激を与え将来的に大きな成果を上げるものと期待します。

2点目は、小規模事業者に対する将来にわたる事業継続を目指した総合支援事業です。積極的なPRに努め活用者を増やしていただくとともに、「しらか」の活用と併せて、町内産業の継続と発展に繋がることを期待します。

3点目は、医療・福祉分野の人材確保に向けた支援です。深刻な人材不足となっているこの分野に対しては、予算の範囲にとどまらず、より一層の取り組みと支援をお願いしたいと思います。

一方で、年々増加する人件費と第3セクターの運営支援については、懸念をするところであり、より一層の業務の効率化と適正な人員配置、並びに第3セクターの健全な経営に対する、町長の強力なリーダーシップを望むところであり、

今年、町政70周年の記念すべき年であり、その関連事業も多く計画されています。町長は、人口減少と少子高齢化の最先端を進む中で、「住む人が元気に楽しく暮らすことのできるにぎやかな過疎を目指す」と述べておられます。その実現に向けた町職員の皆さんの一層のご活躍と、町民各位の積極的な事業参加によって「明るくにぎやかな過疎」が実現できることを期待し、賛成討論といたします。

条例の制定など

29の議案を可決

専決処分の承認（3件）

▼令和7年度白川町一般会計補正

予算（第5号）

国の物価高騰対応重点支援地方交付金・子育て応援手当に対応するための経費1億8,500万円を追加

▼令和7年度白川町一般会計補正

予算（第6号）

衆議院議員総選挙を執行するための経費1,000万円を追加

▼令和7年度白川町一般会計補正

予算（第7号）

岐阜県議会議員加茂郡選挙区補欠選挙を執行するための経費900万円を追加

条例の制定（1件）

▼白川町乳児等通園支援事業の設

備及び運営に関する基準を定める条例

児童福祉法の一部改正に伴い、

乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定めるため、本条例を制定するもの

条例の一部改正（9件）

▼白川町職員の給与に関する条例

等の一部改正

職員の通勤手当等について、所要の改正をするもの

▼白川町会計年度任用職員の給与

及び費用弁償に関する条例の一部改正

部改正

令和7年人事院勧告に準じて所要の改正を行うもの

▼白川町職員の旅費に関する条例

の一部改正

国家公務員の旅費制度の簡素化及び支給対象の見直しを図られたことから、これに準じて所要の改正を行うもの

▼白川町地域振興基金条例の一部

改正

企業版ふるさと納税による寄附金を地域振興基金として適切に管理等できるように、必要な規定を整備するため、所要の改正を行うもの

▼白川町国民健康保険条例の一部

部改正

国民健康保険事業の健全な運営を図ること及び将来的な保険料水準の統一化に向け資産割を廃止するほか、子ども・子育て支援納付金が新設されることに伴い、所要の改正を行うもの

▼白川町小学校及び中学校の設置

等に関する条例及び白川町学校給食共同調理場条例の一部改正

令和9年4月に白川小学校と蘇原小学校を統合するため、所要の改正を行うもの

令和9年4月に白川小学校と蘇原小学校を統合するため、所要の改正を行うもの

令和9年4月に白川小学校と蘇原小学校を統合するため、所要の改正を行うもの

▼白川町社会体育施設条例の一部

改正

佐見運動場及び佐見体育館を社会体育施設から外すことについて、所要の改正を行うもの

▼白川町林業センターの設置及び

管理に関する条例の一部改正

林業センターの使用について、

地域振興など多目的利用ができるよう整理するとともに、会議室の使用区分について、所要の改正を行うもの

▼白川町農業基盤整備事業分担金

徴収条例の一部改正

県営中山間地域総合整備事業「美濃白川地区」の令和8年度新規採択にあたり、事業の種別の整理を行うため、所要の改正を行うもの

条例の廃止（1件）

▼白川町地域振興券交付事業特別

会計条例

令和7年度末の換金をもって地域振興券交付事業を終了するため、本条例を廃止するもの

工事請負契約の変更（1件）

▼黒川簡易水道柿反中配水池施設

改良工事

変更による増額

474万1000円

変更後の請負額

1億7304万1000円

契約の相手方

株式会社安江土建

その他

▼公の施設の指定管理者の指定

次の5つの施設の指定期間が今年3月で満了することに伴い、現在指定管理を行っている団体を再指定する。

■管理施設の名称

クオーレふれあいの里、せせらぎの里美濃白川ふるさと体験村、美濃白川生活文化資料館、美濃白川楽集館、白川射撃場

▼白川町の辺地に係る公共的施設の

の総合整備計画の変更

蘇原地区で辺地対策事業債を活用して公共事業を行うため、当計画の内容を変更する。

▼白川町過疎地域持続的発展計画

の変更

法律の定めるところにより、令和8年度から令和12年度までが計画期間である当計画の内容を変更する。

▼美濃加茂市と白川町との間の学

校腎臓検診の事務の委託に関する規約の制定に関する協議

令和8年度から施行する本規約を制定するため、その内容を協議して議決する。

監査委員
人権擁護委員

▼監査委員の選任に同意

任期満了に伴い、引き続き監査委員として、今井敬貴氏（和泉）を選任することに同意しました。

任期は、令和12年3月24日までです。



今井 敬貴さん

▼人権擁護委員の推薦を承認

任期満了に伴い、引き続き人権擁護委員として、吉田則明氏（切井）を推薦することについて承認しました。

任期は、令和11年6月30日までです。



吉田 則明さん

令和7年度 補正予算

会計区分	補正予算額	補正後の 予算総額
一般会計(第8号)	△2億 800万円	85億6,800万円
介護保険特別会計(第3号)	△5,650万円	11億3,490万円
簡易水道事業会計(第3号)	△4,360万円	9億8,740万円

令和7年度の事務事業の実施結果や進捗状況を精査し、不要額を減額するなどしました。

■追加された主なもの

(一般会計)

- ・障害者自立支援給付費

1451万円

- ・光の子保育園委託費

414万円

- ・白川橋100周年記念事業補助金

200万円

- ・町道等除雪作業委託料

1480万円

(介護保険特別会計)

- ・居宅介護サービス等給付事業費

1540万円

(簡易水道事業会計)

- ・原水及び浄水費(光熱水費)

300万円

■減額された主なもの

(一般会計)

- ・電算システム管理費

3515万円

- ・庁舎整備事業

4000万円

- ・地籍調査事業

2100万円

- ・土地改良事業

2460万円

- ・林道整備事業

2320万円

- ・道路新設改良事業

1140万円

(介護保険特別会計)

- ・施設介護サービス給付事業費

5400万円

- ・地域密着型介護サービス等給付事業費

1700万円

(簡易水道事業会計)

- ・施設建設改良費

4660万円

まちの課題を問う

一般質問

4人の議員が登場

一般質問の様子が、YouTube(動画配信サイト)でご覧いただけます。



ふじい ひろゆき
藤井 宏之 議員



一般質問・答弁の映像

県道(白川福岡線・恵那蛭川東白川線)の改良促進の取り組みとリニア岐阜県駅への取り組みについて

問 県道恵那蛭川東白川線について、美濃東部農道の白川東白川トンネルの県道移管や、遠ヶ根峠の改良工事の見通しはどのようなか。

答

中村建設環境課長
トンネルの県道移管は、諸条件が立っていない。また、遠ヶ根峠の改良も、他の事業との関係から早期の事業化は困難な状況である。今後関係自治体と連携し、県への要望を継続していく。

問

リニア岐阜県駅の開業を見据え、町はどのような取り組みを考えているか。

佐伯町長

リニアにより関東圏からのアクセスが向上することで、本町への来訪

者が増加する可能性があるが、日帰り旅行の増加による宿泊客の減少などの課題も想定される。他地域との差別化を図り、自然や人とのつながりなど本町ならではの魅力を生かし、交流人口の拡大につなげたい。

問 住む人が元気に、楽しく暮らすことのできる「にぎやかな過疎」の実現に向けて、安全な道路整備は不可欠ではないか。

佐伯町長

道路は生活を支える重要な基盤であり、安全・安心な通行環境の確保は必要不可欠である。ただし、道路整備のみで人口減少が解決するものではなく、交流人口の増加などと合わせた取り組みが重要であると認識している。

問 遠ヶ根トンネルの実現について、町の考えはどのようなか。

佐伯町長

トンネル整備は利便性向上につながる一方で、事業化に向けた課題があり、実現には高いハードルがある。今後も期成同盟会と連携し、要望活動を継続していく。

問 県道白川福岡線について、今後の対応はどのようなか。

佐伯町長

課題箇所の解決を待つだけでな

く、対応可能な箇所から段階的に改良が進むよう、県に対して継続的に要望を行う考えである。三川から黒川までの見通しの悪い箇所や狭小区間の改善を図り、通行しやすい道路整備に努めていく。

問 町長の続投の決意と、道路網の整備に対する考えはどのようなか。

佐伯町長

人口減少や地域活力の維持などの課題に引き続き取り組むため、町政の継続と発展を図る必要があると考えており、次期町長選挙においても町政を担わせていただきたいと考えている。

道路網の整備は、重要な課題と認識している。町で管理する道路は、国や県の補助制度の活用により財源確保に努めていく。また、幹線道路の改良が望まれる佐見、黒川地域は、国や県に対し地域と連携した要望活動を行い、整備の推進に取り組んでいく。



遠ヶ根トンネル実現に向けた看板の設置

のじり
野尻
ざとる
悟
議員



一般質問・答弁の映像

施設一体型小中学校
校舎の運用について

白川町も少子高齢化が進行して
いく中、いかにして次世代に質の
高い教育環境を受け渡していくの
か。単なる校舎の統合ではなく、
これから10年、20年先の町の活力
を左右する極めて重要な取り組み
と考える、施設一体型小中学校校
舎の運用について質問する。



施設一体型小中学校全体図

町内の子どもたちの放課後の居
場所として「放課後子ども教室」
や「放課後児童クラブ」が行われ
ている。これらの取り組みの現状
はどのようなか。

問

鈴村教育長

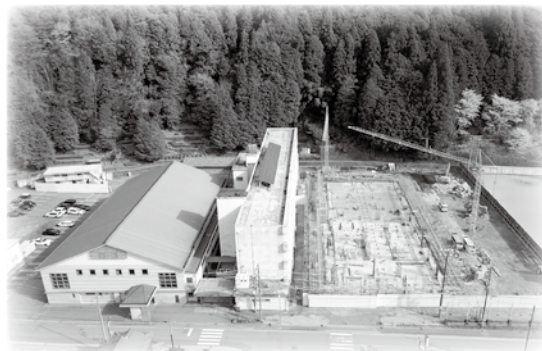
小学校やふれあいセンターで放
課後子ども教室が開かれており、
スクールバスの出発まで、または
保護者の迎えまでの時間を過ごす
場となっている。また、町民会館
では民間委託による放課後児童ク
ラブがあり、白川小学校の児童が
利用しているほか、光の子保育園
でも実施されている。これらの取
組は、子どもの居場所づくりと、
保護者が働ける環境づくりを目的
としている。

令和9年度開始予定の2期工事
では、このような居場所を校舎内
に設ける計画はあるのか。

工作・技術室や図画・美術室の
特別教室を、放課後子ども教室や
中学生の地域未来塾の活動場所と
して活用する予定である。

問

鈴村教育長



建設が進む施設一体型小中学校 (4/2現在)

現在町民会館で行われている放
課後児童クラブとの関係はどのよ
うになるのか。

問

鈴村教育長

特別教室は2期工事で整備され
るため、令和8年度中に長期的な
視点で、校舎内外の運用を含めた
計画を検討し、放課後の居場所が
途切れることのないよう対処す
る。

現在白川中学校で行われている
地域未来塾の将来像についての考

地域未来塾は放課後の居場所づ
くりと見守りを目的としている
が、令和8年度は見守りに加え、
多様な活動のきっかけづくりを行
う。将来的には学習や文化活動な
どへ広げていくことを考えてい
る。

問

鈴村教育長

「読書活動の推進」として、2
期工事で完成予定の図書スペース
をどのように活用するのか。

問

鈴村教育長

図書スペースは、学習支援や情
報の収集・選択・活用を行う学習
情報センターとしての機能と、読
書を通じた心の居場所としての機
能を持たせる。さらに、個別学習
やグループ学習、発表、展示など
ができる多様な空間とし、多用途
に活用できる環境を整備する。

学校は地域コミュニティの核と
しての役割を担う存在であり、本
町の学校整備においても、教育機
能に加え地域の拠点としての機能
が求められる。多世代の交流や学
習活動の場として活用するととも
に、子どもたちの安心・安全な居
場所づくりにつながる運用が重要
である。



うめだ
梅田みつよ
議員

一般質問・答弁の映像

町内の商工業や事業承継について

商業は、住民にとって「生活インフラ」である。避けがたい社会の変化の中で、未来の事業継続や、新年度の商工業補助金制度について質問する。

問 町内事業者の実情と、商工会の実務的な体制強化について、町の考えはどのようなか。

答 渡口振興課長
社会的問題と後継者不足等の複合的な問題を抱える町内事業者の「辞めない選択」を後押しするため、商工会との連携を強化し、役割分担を整理しながら、面的かつ継続的な支援体制を構築していく。

問 町の第二セクターと民間事業者について、町の力の配分はどのようなか。

か。また、新事業計画の予算規模は。

答 渡口振興課長
第三セクターには、国や県の恒常的な補助制度があるわけではなく、出資している町が地域産業の維持という観点から判断し支援を行っている。一方で、町内の民間事業者への支援も重要であると考え、新年度は中小事業者の総合支援事業補助金を創設し、雇用促進や設備投資を支援する。予算は600万円を計画している。

問 新たな取り組みを評価したいが、規模として小さいのではないか。

答 渡口振興課長
十分な支援とはならないが、その分、国等の支援制度と比較し活用しやすい内容で制度設計している。

問 国の外部承継やM&Aには手厚い補助制度があるが、過疎地では実

情に合わず、国の制度の限界を感じる。

答 渡口振興課長
過疎地域では外部から承継者を見つけないことが容易ではなく、実際には親族内承継が地域の事業を次の世代へつないでいく重要な役割を果たしている場合も多いと認識しているが、国は、特に実現のハードルが高い第三者承継を重点的に支援する考えである。

問 中山間地域の親族間承継の緩和を国に働きかけるべきではないか。

答 佐伯町長
今年、中小企業庁で親族間承継について検討会が始まった。承継の形に関わらず持続に繋がるよう、強く要望を進めていく。

問 事業者は、地域の日々を支え、この土地で生きることが強く願っている。コミュニティの役割を評価してほしいか。

答 渡口振興課長
地域の暮らしや、子育てを支える事業者の努力や貢献を見える化し、評価に繋げたい。地域通貨「しらか」の企業ポイント付与、設備投資補助の補助率の嵩上げや将来的には表彰等を検討していく。

問 国は、コンパクト化構想（効率化・集約化・大規模化）を進めているが、地方は効率だけで測れない。

国や県に対する姿勢はどのようなか。

答 渡口振興課長
コンパクト化構想は、「中小事業者の経営を持続可能なものとする」とを目的とし、それを実現するための手段の一つであると認識している。国や県が担う広域的な支援と、町が実情に応じて行う支援の役割を整理しながら、必要な支援を国や県に対して要望していく。

問 地域通貨「しらか」の持続可能目標をうかがう。

答 渡口振興課長
「しらか」は、町内でお金が循環する環境をつくることで、町内事業者の皆様が事業を続けていく、いわば「辞めない選択」を後押しする一助となることを目的として導入したものである。「しらか」という仕組みを続けること自体を目的とするのではなく、町内での消費機会がどのように増えているのか、事業者の経営の継続にどのような影響を与えているのかを丁寧に分析し、加盟店の皆様の声を伺いながら、より効果的な仕組みとなるよう改善を重ねていく。

※M&A
「Mergers (合併) and Acquisitions (買収)」の略。狭義では企業の合併と買収を意味し、広義では事業の多角化などを目的とした資本提携を含むケースもある。



いざじ まさる
伊佐治 優 議員

質問席

一般質問・答弁の映像

学校・保育園の再編について

問 施設一体型小中学校が整備されるが、支援員の配置の考え方は、どのようなか。また、支援員の配置による手厚い教育環境を移住施策の一つと考えられないか。

答 鈴木教育長

支援員の再編は検討課題であるが、当面は現状の人員を維持させたい。理由として、学校の統合により、教員数の制約や、工事中の安全確保、新しい環境への適応支援などが課題となるためである。移住施策としての活用についても検討していく。



支援員の活動の様子

問 「子ども誰でも通園制度」の活用はどのようなか。

答 鈴木教育課長

令和8年4月から開始する「子ども誰でも通園制度」は、保育所等に通っていない0歳6か月から満3歳未満の子どもを対象に、月10時間まで利用できる制度であ

り、保護者の就労要件に関わらず利用できる。

本町では、白川保育園で対応する。現時点では利用ニーズは限定的であると思うが、制度の運用状況や利用者の声を踏まえ、今後のあり方を検討していく。

問 学校給食における町内産米の活用はどのように進めるか。

答 安江農林課長

町内産米の活用は意義があるが、安定供給などの課題があるため、関係機関と連携し供給体制の構築に向け検討していく。



給食センターでの調理の様子

関係人口の構築について

問 大学連携の今後の方向性と、ワーキングドット等の関係団体との関係はどのようなか。

答 渡口振興課長

大学の知見や若者の視点を取り入れ、地域課題の解決や人材育成につなげる取り組みを進めている。ワーキングドットでは、中高生との協働事業やふるさとワーキングホリデーの活用などにより人材育成を図っており、今後も関係人口の創出に向けた取り組みを進めていく。



大学生による成果報告会の様子

議会活動報告

笠松町と交流会を開催

1月28日、笠松町との交流会を開催しました。本交流は、白川町と笠松町が締結した「災害時における相互応援盟約」を契機として平成29年度から始まったもので、今回で5回目の開催となります。交流会は両町が交互に開催しており、今回は白川町で実施しました。

当日は、笠松町から古田町長をはじめ、町議会議員10名、町職員2名が来町されました。

交流会では、本町が誇る宝物の一つであるパイプオルガンの鑑賞や演奏体験を行うとともに、施設一体型小中学校の建設概要を説明しました。また、新庁舎の見学も実施し、本町の取り組みについて理解を深めていただきました。交流会を通じて、相互の親睦を一層深め、今後の連携強化に向けた有意義な機会となりました。



パイプオルガン鑑賞



施設一体型小中学校の建設概要説明



新庁舎の概要説明

可茂町村議会議長会及び正副議長研修会

2月9日、可茂町村議会議長会及び正副議長研修会が白川町役場で開催され、可茂地域8町村の正副議長が来町し、本町からは、田口議長と伊佐治副議長が出席しました。

可茂町村議会議長会では、可茂消防事務組合からの議案説明、令和8年度の事業計画(案)や予算(案)について協議が行われました。

続いて行われた正副議長研修会では、本町が進める施設一体型小中学校の建設に関する研修と白川町新庁舎の概要説明・見学が行われました。施設一体型小中学校の建設に関する質疑では、各町村の現状を踏まえた質問が出されるなど、活発な意見交換が行われました。



正副議長研修会

学校統合建設特別委員会 校舎建設現地視察

2月13日と4月15日、学校統合建設特別委員会において、校舎建設現場の現地視察を行いました。

当日は、白川中学校校舎4階から建設現場を見下ろす形で視察を行い、施工の様子を確認しました。現場責任者から現在の工事の進捗状況について報告を受けるとともに、今後の工程や工事の進め方について説明を受けました。委員からは、工事の進行状況や安全管理、今後の工程に関する点などについて確認が行われました。今後も引き続き、事業の進捗状況を適切に確認しながら、円滑な整備が図られるよう注視してまいります。



現校舎4階からの視察

青雲のつどい立志式

3月10日、青雲のつどい立志式が町民会館で開催され、田口議長が議会を代表してあいさつしました。

式では、「未来への決意」として、生徒一人ひとりが将来の夢や目標について発表し、自身のこれからと向き合う姿が見られました。また、今回から新たに、白川町出身の先輩の話聞く「未来対話の時間」が設けられ、生徒たちが将来について考える機会となりました。さらに、白川中学校と黒川中学校による合同合唱も行われ、交流が図られました。



合同合唱の様子



田口議長のあいさつ

白川橋ライトアップLED化リニューアル点灯式及び寄附者銘板除幕式

3月28日、白川橋ライトアップLED化リニューアル点灯式及び寄附者銘板除幕式が開催されました。

白川橋は、大正15年の完成以来、100年の長きにわたり地域の暮らしを支えてきた橋です。今回のライトのLED化により、環境への配慮とともに、橋が新たな将来へ引き継がれていきます。また、本事業は町内外の多くの方々からの寄附により実現したものであり、除幕式では、そのご芳志を刻んだ銘板が披露されました。

式典では、伊佐治副議長が、これまでの白川橋の歴史や本事業の意義に触れながら、寄附を寄せられた皆さまや関係者への感謝の意を表しました。

(写真上：寄附者銘板除幕式)
(写真下：LED化点灯式)



白川町消防団入退団式

3月29日、白川町消防団入退団式が町民会館で開催され、田口議長が議会を代表して祝辞を述べました。

祝辞では、退団される皆さんに対し、これまで長年にわたり地域の安全を守ってこられたご尽力に対して敬意と感謝の意を表しました。また、新たに入団された皆さんには、地域を支える一員としての自覚と責任を持ち、今後の活動に励んでほしいと激励しました。

今回の式典は、山中団長、後藤副団長の退団に伴い、新体制のもとでのさらなる発展と、安全・安心なまちづくりへの決意を新たにする機会となりました。

(写真上：宣誓にあたり敬礼を行う新入団員)
(写真下：歓送される山中団長)



議会の動き(1月24日～4月22日)

1月

- 26日 白川町防災会議
- 27日 地方財政対策等説明会・合同懇談会
- 28日 笠松町との交流会

2月

- 4日 議会議員協議会
- 8日 加藤一昭氏黄綬褒章受章記念祝賀会
- 9日 可茂町村議会議長会及び正副議長研修会
- 10日 白川町国民健康保険運営協議会会議・介護保険等運営協議会会議
三重県大紀町議会 庁舎視察
- 12日 議会運営委員会
- 13日 学校統合建設特別委員会 建設現場視察
白川中学校3年生美濃白川学「持続可能な白川町」報告会
- 18日 議会議員協議会
- 19日 白川町総合計画審議会
- 25日 めざまししらかわ意見交換会
白川町森林管理委員会
- 27日 町議会第1回定例会(第1日)

3月

- 5日 予算決算審査常任委員会
町議会第1回定例会(第2日)
- 6日 中学校卒業証書授与式
白川・東白川地域公共交通活性化協議会
- 9日 可茂地域一部事務組合議会第1回定例会
- 10日 青雲のつどい立志式
- 11日 白川茶未来協議会総会
- 12日 町議会第1回定例会(第3日)
- 13日 予算決算審査常任委員会
- 16日 予算決算審査常任委員会
- 19日 町議会第1回定例会(第4日)
- 22日 鈴木兼利氏旭日単光章受章祝う会
- 25日 小学校卒業証書授与式
濃飛建設職業能力開発校修了証書授与式
- 26日 保育園卒園式
岐阜県町村議会議長会第4回評議員会
- 27日 可茂地域懇談会
- 28日 白川橋ライトアップLED化リニューアル点灯式及び寄附者銘板除幕式

- 29日 白川町消防団入退団式

4月

- 1日 町職員辞令交付式
- 3日 濃飛建設職業能力開発校入校式
- 7日 小学校・中学校入学式
クオーレふれあいの里安全・繁栄祈願祭
- 15日 議会議員協議会
学校統合建設特別委員会 建設現場視察
- 19日 加茂郡消防幹部らっぱ講習会
- 21日 議会広報編集委員会

表紙は語る



今回の表紙は、新庁舎の議場において初めて開かれた定例会の開会前のひとときを捉えた一枚です。

議員並びに執行部職員が、それぞれの持ち場で静かに準備を整え、開会の時を待つ様子からは、議場に満ちる緊張感と期待が感じられます。

旧庁舎議場で積み重ねられてきた議論と歴史を礎に、この新しい議場から白川町の新たな歩みが始まります。

議会としても、これまで以上に責任と緊張感を持って議論を重ね、町民の皆さまの負託に応えてまいります。

あとがき

議員として歩み始めて半年が過ぎ、ようやく職務の端々にも慣れ、気の引き締まる思いで新年度を迎えています。

先の3月議会において、将来世代に負担を先送りしないための令和8年度予算を審議いたしました。

折しも今年は、町のシンボルである白川橋が、架橋から百年という大きな節目の年を迎えました。先人がこの橋を大切に守り続けたように、予算という「形」を確かな「安心」へ変えて、次なる百年に引き継いでいく責任が私たちにはあります。新しい灯りでリニューアルした白川橋を眺めながら、皆様と共にこの町の未来を語り合えることを心より楽しみにしております。

野尻 悟